

NO. 238

かわさきし おしらせ  
川崎市からのお知らせです。

こんしゅうは、かわさきししんみんみゅーじあむしゃしんてん おしらせ  
今週は、川崎市市民ミュージアム写真展のお知らせです。

かわさき うつりかわり やく50ねん とりつづけて しゃしんか こいけ おう しゃしんてん かわさき  
川崎の移り変わりを約50年にわたり撮り続けてきた、写真家・小池 汪さんの写真展「川崎のあゆみ  
50年」が市民ミュージアムで開催されています。

こいけ こふん ちようさきろく しゃしん てがける しゃしんか 72さい 60ねんいじようかわさきしない せいかつ げんざい  
小池さんは古墳などの調査記録の写真も手掛ける写真家で72歳、60年以上川崎市内に生活し、現在は  
みやまえく すんで  
宮前区に住んでいます。

かわさき れきし ぶんか かんするさつえい かずおおくたずさわり こんかいてんじ さくひん ねんはる 50ねんかん  
川崎の歴史や文化に関する撮影にも数多く携わり、今回展示されている作品は、1955年春から50年間  
とり やく10まんかっと なか げんせん やく170かっと すべてものくろでじたるかめらしゅりゅう  
撮りためた、約10万カットの中から厳選した約170カット。すべてモノクロでデジタルカメラ主流に  
なりつつある中、印画紙に焼き付けプリントした作品です。

さくひん かわさきく あさおくまで しないぜんいき もうら なが すうじゅうねん とき へておなじばしょ さつえい  
作品は川崎区から麻生区まで市内全域を網羅しており、中には数十年の時を経て同じ場所から撮影した  
さくひん たいひ たのしむ しゃしんてん 5がつなのか  
作品により、その対比を楽しむこともできます。写真展は5月7日まで。

かんらんりよう いっぱんごひやくえん がくせいさんひやくえん 65さいいじよう ちゅうがくせい い か むりよう  
観覧料は一般500円、学生300円。65歳以上と中学生以下は無料。

まいしゅうにちようび こいけ げすと ふろあとーく おこないます  
毎週日曜日には小池さんがゲストとフロアトークを行います。

かわさきししんみんみゅーじあむへは、とうきゅうとうよこせん なんぶせん むさしこすぎえき きたぐち ばす 10ぶん  
川崎市市民ミュージアムへは、東急東横線、JR南武線「武蔵小杉駅」北口からバスでおよそ10分。

かいかんじかん あさ9じ30ぶん ごご5じ にゅうかんうけつけ ごご4じ30ぶん  
開館時間は朝9時30分から午後5時まで。入館受付は午後4時30分までです。

じょうせつてん かわさき びじゅつ かわさき えがく かわさき えがく かんらん  
常設展「川崎の美術、川崎を描く・川崎で描く」なども観覧できます。

くわしく かわさきししんみんみゅーじあむ でんわ おといあわせ  
詳しくは川崎市市民ミュージアム 電話044-754-4500までお問合せください。

いじようかわさきし おしらせ  
以上川崎市からのお知らせでした。

NO. 239

かわさきし おしらせ  
川崎市からのお知らせです。

こんしゅうは あさのそういちろう えいがが ごしやうかい  
今週は「浅野総一郎」の映画化のご紹介です。

けいひんこうぎやうちたい ちち いわれ せめんときやう せいこう おさめたじつぎやうか あさのそういちろう えいが せいさく  
「京浜工業地帯の父」と言われ、セメント業で成功を収めた実業家、浅野総一郎の映画が制作されるこ  
とになり、3がつくらんくいん  
とになり、3月クランクインしました。

せいさく さいわいく えいががいしゃ なみ じしゅせいさく  
制作は、幸区の映画会社「さざ波」が自主制作。

だいいい きゅうてんじゅつき おとこ あさのそういちろう  
題名は「九転十起の男 浅野総一郎」。

かんたく いちかわとおるかんたく あさの いじんてん しゅつばん みやまえくざいじゅう さつか につたじゅんこ いちかわかんたく えいがか  
監督は市川徹監督、浅野の偉人伝を出版した宮前区在住の作家・新田純子さんが市川監督に映画化を

もち かけた のが きっかけ、市川監督は偶然にも浅野総一郎が創立した浅野学園の卒業生、原作を読みその魅力を伝えたいと引き受けたとのこと。

映画は浅野が、1848年に能登半島の藪田村、現在の氷見市で町医者之家に生まれ、15歳で商売をおこすも次々と失敗し、借金を抱えながら24歳で上京、石炭やリサイクル業を経て、官営の深川セメント工場の払い下げに奔走するまでを取り上げる。

制作費は約4千万円。

浅野総一郎は、官営の深川セメント、後の浅野セメント、現太平洋セメントの払い下げを受けたり、浅野造船所、後の日本鋼管、現JFEスチールを創立するなど、実業家として成功を収め、工業都市川崎の発展の立役者の一人となり1930年に亡くなりました。

撮影には川崎市と浅野の出身地、富山県氷見市も協力し、5月の完成を目指しています。

以上川崎市からのお知らせでした。

NO. 240

川崎市からのお知らせです。

今週は新しくオープンする市民文化施設のご案内です。

9月にJR川崎駅西口に完成する大規模商業施設「ラゾーナ川崎プラザ」の5階に、軽音楽や演劇などが行える市民文化施設「○○○○」がオープンします。

600平方メートルの広さに、多目的に使える客席200席の小ホールや会議室、控室などを整備。小ホールの特色を生かし、ジャズや軽音楽、演劇、演芸、ダンスなどジャンルを問わず、プロからアマチュアまで幅広い出演者が利用できる施設を目指しています。

川崎市市民文化室は、「これからという若手の登竜門的な場所になれば」と期待しています。

施設の管理運営は川崎市文化財団に委託し、財団はNPO法人「市民文化パートナーシップかわさき」と協力して、独自に事業を企画・実施します。

9月のオープンには記念式典を行い、10月はオープン記念事業月間とし、

11月から一般利用が可能です。

市民文化施設「○○○○」一般利用のお申込み、お問合せは

財団法人川崎市文化財団 電話 044-221-8107まで

(繰り返し)

受付時間は土日・祝日を除く、午前10時から午後5時までとなっています。

以上川崎市からのお知らせでした。